

全住民参加の川を軸とした村おこし・サロン方式

智頭町（ちづちょう）親水公園連絡協議会 会長 前橋 登志行（事務局 小屋本 政顕）

千代川流域、智頭町の概要

千代川（せんだいがわ）は鳥取県東部に位置し、延長52km、流域面積1,190km²で、流域には鳥取県の1市8町1村があります。水源は東部最南端の本町智頭町であり、日本海に向かって流れています。智頭町は岡山県に境を接する県境の町で古くは、山陰、山陽、近畿に通じる街道往来の要所にあたり、宿場町として栄えました。現在は、鳥取・岡山を結ぶ国道53号線、JR因美線、及び姫路を結ぶ国道373号線、第三セクターの智頭急行の要路です。また、支流の芦津溪谷は澄みきった空気と清水流れる溪谷でダム湖の湖面には対岸の山々の自然美を映し、新緑から紅葉へと四季折々には幻想的ともいえる空間をつくりだしています。

親水公園連絡協議会のあゆみ

智頭町には親水公園が整備されており地域交流の拠点として機能しています。この公園整備の中心になるのが智頭町親水公園連絡協議会です。昨今の護岸工事（コンクリートブロック積）により川との本来の関係（川と密接に関わりながら暮らし、住民と住民が顔を含わせ人間関係を円滑）を忘れつつあるため、もう一度生活空間としての河川を取り戻そう、平成6年8月設立しました。元来川づくりは、行政によって進められていましたが現在では住民参加型の川づくりへと変わってきました。智頭町では、いち早く官民一体となったサロン方式により各親水公園整備が進行しています。

連絡協議会も住民主体とした、行政（町、県）専門家、住民で構成され、お互いの知恵を出し合い、川を軸とした地域づくりを行うことを目的としています。



写真1 自然石を利用した親水公園

サロン方式

平成5年6月より鳥取県（郡家上木事務所河川係）が独自の取り組みとして河川事業計画がもち上がった段階で地域の住民を対象に集会を開催し、自由に意見を出し合い、要望を設計図に書き、専門的な技術でフォローし再度住民に提示する方法で設計をくみあげて行く。

特徴としては住民と行政が汗と知恵を出し合いその場所場所に適した施設（川づくり）をつくりあげることである。

ちびっ子河川パトロール隊

ちびっ子河川パトロール隊とは、町内6校の小学生児童で構成しています。目的は、川に親しみ川をよく知ること。川に生物や魚がたくさん住めるきれいな川を取り戻すこと。森と川と海の関係を知ること。川と生活の歴史を知ること。川を通じて地域の活動に参加することをモットウに活動をしています。

河川生物実態調査

学校間の交流も含め、町内親水公園にて環境学習器材を使用しての河川生物の実態調査です。プログラムのながれは、結成式、参加者自己紹

全住民参加の川を軸とした村おこし・サロン方式

智頭町(ちづちょう)親水公園連絡協議会 会長 前橋 登志行(事務局 小屋本 政顕)



写真2 採取した水性生物の観察



写真3 水質検査

介、フィールドにて観察、スケッチ、交流会(食事)の順で活動しています。

夏休み親子下水道教室

智頭町においても下水道整備が進んでいる現在、既に整備されている施設において環境学習の一環として親子で学習しています。

内容は処理場の見学はもとより千代川上流、中流、下流にて川の水を採取し処理場の検査室にて専門の検査員の指導を受けながら水質検査を行い水環境について考える。及び水の中の微生物の働きの説明を聞くとともに顕微鏡で実際に観察します。

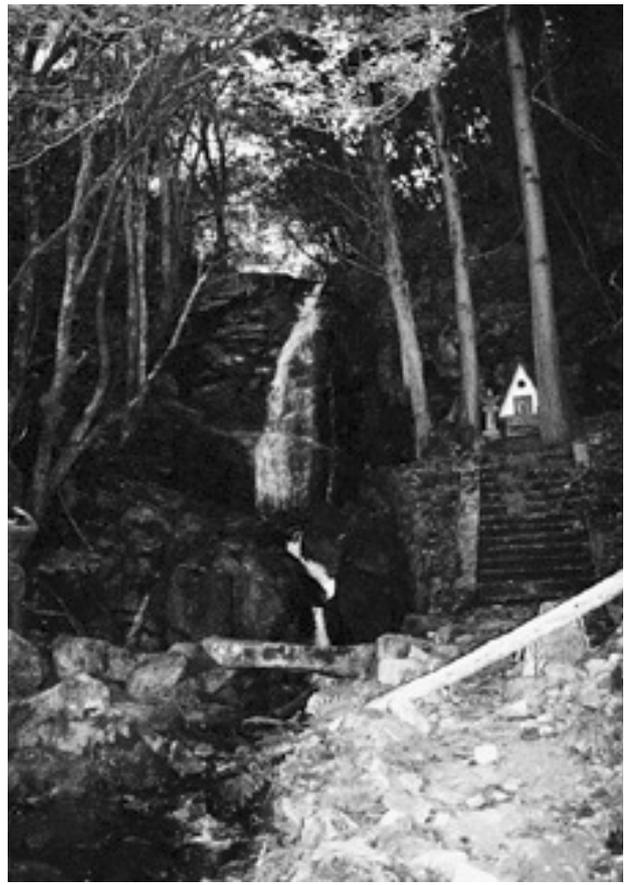


写真4 「名称、お滝さん」昼でも薄暗い木立の中にあり隣接の山の神様と相まって神秘的さを感じる

ふるさとの川八十八景

長年同じ場所に住んでいても、やはり川はふるさとであり、心を和ます最高の場所です。町内の川は少しずつ形状を変えていますが、まだまだ多くの淵、滝、素晴らしい渓谷が数多くあります。それらの場所、場所にはユニークな名前がついていて名前にまつわる言い伝えがあり、町外からも観にきていただける景観(現在26景)の発掘を実施しています。

溪流魚の放流

中山間地活性化推進事業の一環として、町内の子ども達に生き物や生活環境を大切にする心

を養ってもらおうとともに、ふるさとの川とのつながりを深めてもらう意味で園児、児童により渓流魚の稚魚を河川に放流を実施しています。

千代川流域圏会議

鳥取県東部を流れる千代川流域で地域おこしや川づくりを進めている国（建設省）自治体（鳥取県、1市、9町村）活動団体、個人が一同となる「千代川流域圏会議」が1997年（平成9年）12月に千代川を軸として、人々が交流と連携の輪を広げ、豊かなふるさとを造る目的で創設され、その会員は50数名におよんでいます。そこに「智頭町親水公園連絡協議会」も入っています。活動の内容は会員相互の情報交換、交流、連携・地域への情報発信・流域の歴史、文化の発掘とその継承、その発展に関すること・流域が連携して取りくむべき事業の実施・流域全体の広い視野に立った今後の千代川づくりに関する意見交換、提案です。



写真5 渓流魚の放流



写真6 千代川ファスティバル

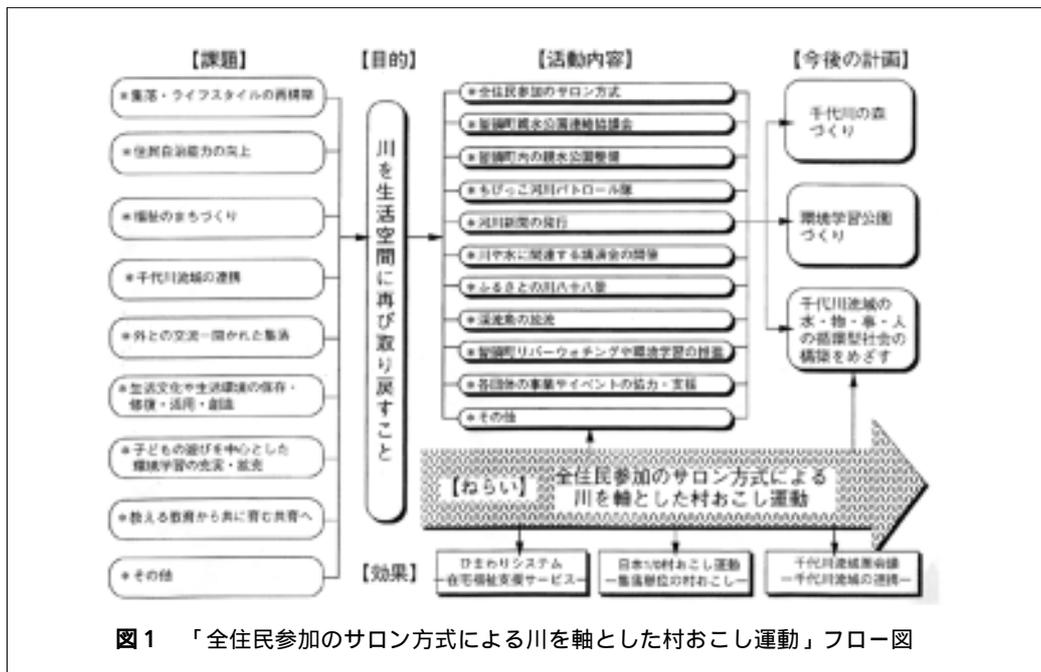


図1 「全住民参加のサロン方式による川を軸とした村おこし運動」フロー図